

議 事 録

令和6年12月23日作成

会議名	第2回木更津市観光振興計画推進委員会(書面会議)		
開催日	令和6年 10 月15日(火)	場所	—
時 間	—		
回答者	委員 五十嵐潤子 神谷啓子 村上愛美 石原敬司 満間信樹 沼野丈幸 阿部厚司		
議 題	(1)第3次木更津市観光振興計画(素案)について		
公開・非公開の別	公 開	非公開理由	—
傍聴人	0人		
概 要	下記のとおり		

(概要)

○五十嵐委員長

- ・第3次計画(素案)のみ拝読したことに対する意見です。

全体的に、スローガンをひとつのイメージにフォーカスしたことがとてもいいと思いました。
そこから広がる世界をもっと深めていけるのではと思います。

1. スローガンについて

- ・里山など「心地よい田舎」を中核におくビジョンは非常に共感できます(ただし、個人的にその「心地よい田舎」の中身を熟知してのことではないので、申し訳ありませんが、他地域との比較においての優位性について言及するものではありません)
- ・前述の「共感」要素は、第2次までの分析や振り返り等においての多岐にわたるターゲットが絞り切れていない観光施策が、限られた小さな地域(日本全体からすると)にとっては、得策ではない、という感覚を持ったことに由来します。

2. 「伝える」「感じる」「つながる」について

- ・「伝える」「感じる」「つながる」は、誰の目線なのか、はっきりしません。「伝える」は「施策者側」、「感じる」は「旅行者側」、「つながる」は？ここは、視点を統一しないと、ビジョンとして何を大事にするのかが不明確になると思います。

・また、「伝える」「感じる」「つながる」はコンセプト（そうありたい）であって、施策の目標ではないと思いますが、違いますでしょうか？それぞれに施策を記載していますが、そこには結果的に無理が生じ、結果的につながらない状況を招くと思います。施策自体は、別途目標を具体的にたててはいかがでしょうか？

3. 具体的施策について

※以下、3点について言及させていただきます。

- ・今回、「心地よい田舎」をスローガンに掲げていますが、この言葉は、素案内にも出てくる「グリーンツーリズム」などとも非常に親和性の高いスローガンだと思います。一方で、「グリーンツーリズム」や、「エコツーリズム」の場合は、やはりとても大事なソリューションとして、「ガイド」があります。素案の中には、「人材育成」を表す表現が全くありませんでしたが、サステナブルツーリズムの基本中の基本として、その魅力と旅行者の知的好奇心を満たす人材育成や人材バンク的な取り組みは必須ではないかと考えます。
- ・コンセプトの「つながる」は、もっと広域の連携を模索する施策があってもいいのでは、と思いました。千葉の他地域との連携や、里山的概念を主要コンテンツとするのであれば、そういう特性を持つ日本の他地域とつながるなど、市単独だけで考える取り組みからの脱却を図るべきかと思います。
- ・訪日客を招きたいとするならば、ITを活用した交通のシームレス化や、デジタル決済の普及は早急に整備していったほうがいいと思います。

○神谷委員

※気になるところをかき出します。

第4章 基本目標と施策の方向性

1 基本目標

・「オーガニックなまちづくりアクションプラン」「地域循環共生圏」「オーガニックなまちづくり」についての注釈があった方が良いのではないかと。またはわかりやすい表現ができないか。

・基本目標：最終行・・・文化の保全につながる観光振興を目指します。

文化をいかした魅力ある観光地域づくりを目指します。

はどうか？

・スローガンが「都心に近い心地よい田舎」となっているが、田舎がスローガンに入るほど田舎なのか。木更津港・金田周辺をイメージすると田舎をスローガンに入れるのは違和感がある。

2 施策の基本方針

②感じる

主な施策に里海、里山ともに保全とあるが、保全は観光の領域なのか。

第5章 観光振興に向けた施策

1 施策内容一覧

① 伝える（1）③潮干狩り場のPR活動強化・・・潮干狩り場のみのPRでよいのか。

② 感じる（1）①施策に対してKPIが相違しているような・・・

※全体的に

・パークバイプロジェクトで富士見通りのまちなみがハード面では再生されるが、木更津駅周辺（街なか）に観光客を集客できるコンテンツの見直しが必要。イベントの開催では活性化できないのではないか。

・週末の金田地区でのアクアライン渋滞回避の観光客が回遊できる取組が必須。

・木更津の歴史・文化を観光資源として掘り起し、魅力的に磨き上げ活用することで観光客を呼び込めるのではないか。

・全体的な印象として、具体的な施策が見えてこないがそれはあえてなのか？

○村上委員

●P23／効果的なプロモーションの確立 課題や今後の方向性

高速バスやタクシー等を利用する際に補助金を拠出するなど補助体制を検討とあるが、これは国内会議・国際会議の参加者向けということでしょうか。

木更津への会議誘致の課題のひとつは「アクセス（空港から会場、木更津駅から会場）」であることから、会議参加者向けの専用バス代の補助などの制度を検討施策にいれることも検討していただきたいです。

また、かずさアカデミアパークでの会議開催時は周辺に飲食店がないことがネックとなる

こともあります。会場と駅周辺飲食店をつなぐバスを提供するなど市内への経済効果を高めるための運営支援も検討していただきたいです。

●P24／効果的なプロモーションの確立 インバウンドの推進 課題の今後の方向性
ひとつめの項目の文章が途中で切れてしまっている印象があります。

○石原委員

OP.4の木更津市総合計画 第3次基本計画の最初の目標が記載されていないと思います。

施策 20-4 都市と農村交流促進の上に目標が来ると思います。

OP.16 のきさらづ DM0 による来訪者調査等の結果について、延べ宿泊者数は日本人旅行者の宿泊数が増えているということで良いでしょうか。

リピーター率の低下についての原因は何か掴んでいるのでしょうか。

OP.26 のクロス SWOT 分析の弱みの2段目「●プライオリティに沿った確実な受入環境整備」

と記載しているが、そもそも優先度の高い事業に対して受入れる環境整備が整わないのであればその原因を弱みとして記載したほうが良いかと考えます。また、優先順位が高いが環境が整わないのであれば、優先順位を変えても良いかと思えます。ニーズがあってもニーズを満たすための環境が整わなければ、サービスの向上にはつながらないかと。或いは、できることからやる方向で少しずつニーズを満たしていくか、難しいところです。

OP.29 のコンセプトの実現に向けての中身は「グルメ・食」や「お土産」の部分も盛り込んでいるのでしょうか。この部分については、7割程度の満足を得ているということで「自然・景観」「観光地までの交通手段」「観光地域内の交通手段」および「体験プログラム・日帰りツアー」「祭りやイベント」を主軸に進めるという認識でよろしいでしょうか。であれば、「体験プログラム・日帰りツアー」「祭りやイベント」の評価が総合満足度を下回っている原因を調べて、それを課題として3次基本計画に盛り込んでも良いかと考えます。

○P.30 観光振興に向けた施策について2次基本計画終了後現状とのギャップを記載されていると思いますが、その部分についてもう少し説明が必要だと感じました。

予算は限られておりますので、効果的に進めるにはある程度ターゲットを絞って来訪者のニーズを満たすことが木更津市の魅力度向上につながると考えます。ニーズを満たされた、来訪者（特に SNS 利用者）は自ずと木更津市を PR してくれるのでは。

○満間委員

事務局の皆様のご尽力、ご苦勞には、頭が下がります。大変お疲れ様でございます。

さて、計画にあたっては、具体的に結果、成果を見据えることが肝要であると考えますので、以下確認と小職の意見をお伝え致します。

1. 確認事項

1-1. P16 木更津市の動向の記載内容について

- ・入込客数、平均消費額が2021年と2022年の比較であるのに対し、平均消費額、総消費額は2022年と2023年の比較になっています。
- ・どちらかに統一しないと、数字に誤解が生まれると考えます。
- ・ちなみに、総消費額＝入込人数×平均消費額の認識であっていますか。

1-2. P16 出所について

- ・「きさらづDMOによる来訪者調査等」と記載されておりますが、「等」ではなく、それぞれの出所を明確にし、調査内容の違いがわかりませんと正しい結論に結びつかないと考えます。出所を教えてください。

1-3. P29 伝える、つながる、感じる

- ・主語に、木更津市と旅行者の双方が含まれているように感じますが、意図されている主語はどなたでしょうか。
- ・記載方法に大変苦慮されたと推察致しておりますものの、曖昧な言葉遣いは、聞き心地は良いかもしれませんが、計画と実行にあたっては認識の齟齬を生みますので、主語

の定義をはっきりさせた方が良いと考えます。

2. 計画素案に関する意見

2-1. 木更津市の基本目標（P28）では「オーガニックなまちづくりのコンセプトを背景とした高付加価値化や新しい観光・導入スタイルの導入、関係人口の増加のための拠点作り」とされており、この基本目標に大きく賛同します。SWOTのWに記載のとおり、千葉県内や同様の田舎との競合を記載されているとおり、他との差別化を明確にすることが重要で今の木更津市にとっては、これこそが他社との重要な差別化であると考えます。

2-2. 他方、施策の記載になった途端に、従来の施策の延長線になっています。木更津市観光振興課が対応できる人的資源、予算を考えると基本目標に沿った優先順位付け、重要施策の明確化が必要と考えます。（もちろん、従来施策を突然削除する訳にはいかないことも承知しておりますので、重要度を明確にし、具体的な活動計画に落とし込むべきかと考えます）

2-3. ゴールイメージの明確化

「本計画を達成する5年先の未来が、この計画を読んで共有できるかどうか」が重要で、作成に携わる皆さんと読んだ方が同じゴールイメージを共有できるようにすべきと考えます。（基本目標の最終節に記載されたことばだけでは、ゴールイメージの共有が難しいのではと考えます）

2-4. シビックプライド（P28）

市民が自慢できないまちに、旅行者は決して来訪してくれません。よって、まずはここからの5年間は、木更津市民に知ってもらうことが重要な段階だと推察しています。KGIとして、木更津市民のオーガニックなまちづくりや観光計画施策に対する認知度を計測し、向上させることも重要と考えます。

2-5. KPI の設定

・例えば、MICEの項目で国際会議誘致件数や人数の表記がありますが、重要なことは基本目標に沿った会議を誘致できたのか、という視点が重要と考えます。

- ・また、ツアー造成件数といった記載がありますが、造成はできても集客ができないことの方が初期の段階では多く存在します。KPI にコンテンツ数に加え、実績数も加えるべきかと考えます。その設定により、行動計画時点でどの程度の時間を費やすべきものかが明確になると推量します。

2-6. 個別施策の内容 (P33 ~)

- ・標題が「個別施策の内容・スケジュール」とありますが、日程・次期に関する記載がありません。
- ・できれば、概ねいつ頃という記載があれば、行動計画をたてる際に効率化が図れると考えます。

2-7. インバウンド

- ・基本目標どおりの施策である場合、アジア系のインバウンドを誘致するのではなく、欧州のインバウンド強化に注力するべきであると考えます。
- ・市の計画上、バランスを持つ必要性は理解していますが、ターゲット顧客を明確にしませんと望む結果は出てこないと考えます。まずは、木更津市民、次に首都圏、その後他県及び欧州インバウンド、などの優先順位を本計画で明瞭にすべきと考えます。

2-8. 目標

- ・基本目標の記載で、向かいたいゴールは理解しています。
- ・5年後の姿の定量的な記載(KGI)が必要と考えます。
- ・第1回での発言のとおり、旅行消費総額をゴール指標(KGI)の最重要数値とすべきと考えます。(旅行消費総額のKPIが入込人員、宿泊人泊数、消費平均額)になるかと思えます。
- ・もちろん、KGIには、記載された「基本目標」のオーガニックなまちづくりに対する効果(具体的には「オーガニック施策に対する認知度」=2つめのKGIとし、KPIは市民、来訪者、非来訪者の認知度)を入れることも大切と考えます。

3. その他

3-1. P16 延べ宿泊者数の説明文は、「飲め宿泊者数」ではなく「延べ」と推量しています。

3-2.「基本目標」の記載ですが、標となる数値が入っておりません。数値を入れないのであれば、「基本方針」とすべきと考えます。

色々と申し上げてしまい恐縮ですが、実現したい姿とそれに向けて直ぐに行動計画に反映されるものをせっかくでしたら作るべきだと考え、多数の意見を申し上げました。お手数をおかけしますが、ご検討頂ければ幸いに存じます。

○沼野委員

素案について拝見させて頂きました。

特段意見はないことをご報告させて頂きます。

素案を拝見するにあたり、地元バス事業者に勤務する者として、
下記の取組を実行したいと考えています。

○アカデミアパークでの学会・コンベンション開催者への提案（タリフの作成・発信）

- ・木更津駅～アカデミア送迎バス運行の提案（費用・バスタイプ・時刻表例等）
- ・貸切バスを利用するエクスカーション提案（日帰りモデルコース・費用例）
- ・首都圏からアクセス提案（高速バス利用者増進）
- ・エクスカーションの観光素材の研究（盤図干潟・いっせんぼくなど）

○阿部委員

■第1章 国の動向として第4次観光立国推進基本計画に関する記述及び目標等の記載も

あるが、国の指針に沿った計画であるという基本的な考えとしては良いのだが、同基本計画策定後の2023年の1年間、2024年の第3四半期までの概況を見る限り、当初の想定を上回りコロナ前のピーク時である2019年を超えるデータや2025年目標もクリアしている数値も見られる。

特にインバウンドの旅行消費額、旅行者数、国内交流の消費額などは達成される事が濃厚なので、国の基本方針との整合性も述べつつ、こうした上振れの現状につ

いても言及したうえで文章をまとめるほうが現実的かと思いました。

■第2章 こちらについても本市の第2次計画以降の実態数値の記載と思いますが、最終データの確定が間に合わないなどの事情はあるにせよ、3次計画を検討しているJUST NOWの概況として国内外の観光動向はかなり上向いているということは、公知の事実として触れても良いのではと思いました。

■第3章 木更津に限らず他の地域においても課題としてあげられるのですが、弱みとして2番目に記載のある人材不足にも関連して、地域を良く知る様々なガイド育成の必要性も考えられるのではと思います。

その際の解決策の一つとして、働き方改革の観点も踏まえたうえで公務員なども含めたスキルのある人材の兼業・副業容認の動きを進めしめるべき報酬を受け取れる体制づくりを整備していくことなども目標に掲げて良いのではと思います。

■第4章 本市が市全体で進めるオーガニックシティ推進の一連の施策は、国の基本計画に記載されている「持続可能な観光地域づくり」に合致するものであり、案においても基本目標やコンセプトへの記載もされているのですが、残念ながら「持続可能な観光」という概念に関してはGSTC（グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会）が規定する「サスティナブル・ツーリズム」という用語のほうが世界的にも認知度が高いと思われるので「オーガニック」の記載と併用あるいは、注釈をつけるなどして、この両者が同義語であることを説明し、スローガンにも用語として反映できればインパクトがでるかなと感じました。

■第5章 個別施策に関して各項目ごとの分類についてはこれまでの計画などとの比較の観点や整合性もあるため必要な記載とは思いました。

ただ前回の会議でも述べさせていただいたかと思いますが、せっかく本市は「SDGs 未来都市」と「国際会議観光都市」の認定を受けており、「自転車を活用したまちづくりを推進する 全国市区町村長の会」や「球都」にも名を連ねていることなどからこれらを総合的な見地で横断的に総論としてまとめて、観光客にストーリー性として訴えていくことも必要かと思っています。

また持続可能な観光地域づくりに向けて国際認証やラベル取得に向けて積極的に取り組む地域が増えているなかで、GSTCの基準を満たし持続可能な観光地の国際的なアワードの1つである「グリーンデスティネーションズ」を受賞した国内の団体・エリアは岐阜県高山市、香川県小豆島エリア、愛媛県大洲市などまだ5団体であることから「オーガニックシティ」を目指す本市としても受賞を目指すかどうかは別にして今後の方向性としてこれらの事も念頭におき、観光庁が開発した「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」も参考にしながら部門横断的に包括的な観光振興策の検討することなども盛り込んではいかがでしょうかと思いました。

その他、これら一連の観光振興施策は基本的には外部の人たちへ向けたいわば「アウトター施策」とも捉えられますので、これらを受け入れる側でもある市民にも向けた「インナー施策」の要素もどこかに記載して訪問側、受け入れ側が双方よしの政策としてまとめられると良いかなと市民の立場では感じます。

（総論） 個別具体に関して記載しましたが総論的には「オーガニックシティ」ということを国内外含めて認知されやすい「サスティナブル・ツーリズム」として再定義して理解度を高めるとともに、ガイドや案内役などの要素も加味し市民も巻き込んで、「観光」だけでない総合的な戦略により、最終的には「雇用と税収の確保」につなげることが本計画のベースで落とし込めれば良いかなと思いました。

上記議事録を証するため下記署名する。

令和6年12月24日

木更津市観光振興計画推進委員会委員長 五十嵐 潤子

